

自動認識のサイレンスネット

わたしたちは、自動認識技術で社会に貢献します

Providing sustainable Auto-ID solutions based on the global trends



タカヤ UHF帯RFIDリーダライタの設定 注意点

(1W) UTRX-LUN01AS-8CHでUTRXRWManager Version 1.02を使用する場合

2026年 7月 1日

株式会社 サイレンスネット

設定を保存する際にRAM設定とFLASH設定の違いは何でしょうか。
どの様に使い分ければ良いのでしょうか。

RAM設定とFLASH設定の違いについては次の通りです。

●RAM設定

性質 : 揮発性のメモリへの書き込みです。

保持期間: 電源が入っている間のみ有効です。電源を切ったり再起動したりすると、設定内容は失われます。

反映 : 書き込み後、即座に動作に反映されます。

●FLASH設定

性質 : 不揮発性のメモリ（フラッシュメモリ）への書き込みです。

保持期間: 電源を切っても設定内容が保持されます。

反映 : 次回の電源投入時や再起動(リスタート)時に、この設定値が読み込まれて動作に反映されます。

注意 (1W) UTRX-LUN01AS-8CHでUTRXRWManager Version 1.02を使用した場合
RAM設定後にリーダライタの設定画面を再度開くと画面設定はFLASHに設定した値が表示されるがリーダライタはRAM設定値になっています。

リーダライタの設定値と画面設定表示が相違しているので注意が必要です。

●使い分けのガイドライン

RAM設定を使用する場合：

設定のテスト・調整時: 読み取り距離の微調整など、最適な値を試行錯誤している段階に適しています。

再起動すれば元の状態に戻るため、安全にテストが行えます。

その場限りの運用で設定を変えたい場合に使用します。

FLASH設定を使用する場合：

電源をオフにしても設定を維持したい場合にFLASH設定を行います。

次回起動時も同じ設定で動作するよう、機器の基本設定として記憶させます。

注意 LAN接続時は、「RAMに設定」ボタンのみをご使用ください。

「RAM+Flashに設定」ボタンをご使用の場合はUSB接続に切り替えて実行してください。

連続インベントリと連続インベントリリードの違い

連続インベントリと連続インベントリリードの違いは何でしょうか。
停止させる操作はどうすれば良いですか。

UTRXRWManager Ver.1.0.1.0

ファイル(F) リーダライタ制御コマンド(O) リーダライタ設定コマンド(W) RFタグ通信コマンド(R) ツール(T) 設定(Y) 接続(Z) ヘルプ(H)

リーダライタ動作モード コマンドモード COM 5

受信データ一覧 送受信ログ

Count	PC	EPC(U11)	RSSI	最小値	最大値	InAnt
28	10 00	AB CD 00 01	-57.1	-65.1	-55.3	1
22	30 00	99 99 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 09	-66.2	-68.2	-62.3	2
11	30 00	AA 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 03	-53.6	-54.1	-52.5	1
11	30 00	AA 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 01	-56.5	-57.4	-55.7	1
21	30 00	E2 80 68 94 00 00 40 02 4B E4 D0 7A	-62.2	-64.4	-60.9	1
7	00 00		-70.8	-70.8	-64.5	1
11	14 00	55 55 55 55	-57.6	-58.6	-57.6	1
21	30 00	55 52 45 4D 30 30 30 30 30 36 35 39	-58.6	-69.2	-58.6	1
21	30 00	11 11 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 09	-58.4	-59.6	-56.6	1
21	30 00	00 E0 86 47 E8 12 7D 6B 4F FD 9D 2A	-60.6	-66.9	-60.6	1
8	30 00	E2 80 68 94 00 00 40 02 4B E4 34 7A	-66.6	-66.6	-63.8	1
9	34 00	99 99 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 01	-66.8	-67.7	-65.2	1
19	30 00	99 99 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 10	-65.8	-67.6	-63.9	1
11	30 00	E2 00 00 20 61 04 01 87 13 20 A8 6D	-62.1	-63.5	-61.7	1
10	30 00	99 99 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 18	-62.7	-66.2	-62.4	1
11	30 00	99 99 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 16	-66.1	-68.2	-65.8	2
21	30 00	E2 80 11 B0 A5 02 00 66 E5 03 39 21	-63.2	-65.1	-60.8	1
19	30 00	99 99 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 02	-56.1	-67.4	-55.3	2
11	30 00	AA 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 02	-50.3	-50.5	-50	2
11	30 00	E2 80 68 94 00 00 50 02 4B E4 30 7A	-31.8	-32.4	-31.8	2
11	30 00	88 88 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 02	-59.6	-59.6	-58.8	2
19	30 00	11 11 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 04	-66.4	-68.6	-63.2	1
11	34 00	20 23 09 06 12 75 9A 04 1B C0 02 0D	-68.8	-68.8	-66.9	2
10	30 00	99 99 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 13	-63.6	-64	-62.8	2
11	30 00	00 F0 86 47 F0 04 0D C8 08 00 5B 05	-68.2	-71.2	-66.8	2

読み取り総数: 55

コマンド
連続インベントリ
連続インベントリリード
消込
電波環境...
リーダ設定...
マクロ
マクロ2
0 枚/秒
55 枚
Clear
CountClear

「連続インベントリモード」と「連続インベントリリードモード」の主な違いは、読み取るデータの範囲です。

いずれも上位機器からのコマンドを待たずにリーダライタが自律的に動作する「自動読み取りモード」ですが、以下の通りの動作に差異があります。

●UHF連続インベントリモード

RFタグの EPC (UII) データのみを読み取ります。読み取りデータには、読み取りをおこなったアンテナ番号、RSSI値、ANGLE値、StoredPC+EPC、が含まれます。

●UHF連続インベントリリードモード

RFタグの EPCデータに加え、指定したメモリバンク (MemBank) のデータも同時に読み取ります。指定できるメモリバンクは最大2種類までで、あらかじめ「自動読み取りモードパラメータの書き込み」コマンドで読み取り対象を設定しておく必要があります。

指定したメモリバンクのデータが読み取れなかったタグについては、上位機器へのレスポンスは返されません。

また、指定したメモリバンクを同時に読み取る関係で、UHF連続インベントリモードに比べて読み取りスピードが遅くなります。

●自動読み取りモードの停止方法

「自動読み取りモード」の停止方法ですが、「リーダライタ動作モードの書き込み」コマンドでリーダライタの動作モードを「0x00：コマンドモード」に遷移させることで停止することが可能です。

UTRXRWManagerを使用する場合は、左側の「コマンド」と書かれたボタンを押すことでコマンドモードに遷移させることができます。